

2016年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	学部間共通外国語教育運営委員会は、「権利自由」「独立自治」さらには「世界へ『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ」という本学の教育理念に基づき、「真の国際感覚」を持った「個」を育成するために、学部を超えて横断的に履修できる会話科目を中心とした外国語科目を設置していく。 本委員会の目的は、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程で、「明治大学に設置されている全学共通の学部間共通外国語科目による外国語教育の充実とその円滑な運営を図るため、教務部委員会の下に専門部会として、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会を置く。」と定めている。					
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	理念や目的については、学部間共通外国語シラバス(ホームページ公開)に記載され、教職員及び学生に公開している。					
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	理念や目的の適切性について、定期的に検証を行うシステムが十分とは言えないが、次年度の授業計画を策定する際に、設置科目や、設置キャンパス、開講の曜日時限について、委員会において適宜議論し、それらの開講科目が当委員会の理念や目的に対して適切となるように検証している。					

2016年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか						
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	本委員会の編成は、「全学共通の学部間共通外国語科目における外国語教育の充実とその円滑な運営を図る」という本委員会の目的を達成するために、必ず各学部から2名以上の委員を選出することとなっている。 2016年度は英語種については各学部から1名ずつ・合計10名、その他ドイツ語種3名、フランス語種5名、中国語種2名、朝鮮語種1名、スペイン語種1名の教員がそれぞれ委員として選出された。					
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか						
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	第2回委員会（2016年6月28日）において自己点検・評価報告書案を提示し、確認及び検証を行っている。					

2016年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか						
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	教員組織の編制方針としては、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程第2条第3項に基づき、教員採用に関して本委員会は、科目担当者の予備的選考に関する事項のみを審議し、教員採用に関しては各学部の採用基準に準ずる。					
(2) 付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか						
教員の編制方針に沿った教員組織の整備						
a ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】	全学共通の学部間共通外国語科目による外国語教育の充実とその円滑な運営を図る目的から、当該科目は適格性を審査した各学部所属している本学専任教員及び兼任教員が授業を担当している。					
教員組織を検証する仕組みの整備						
b ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	毎年4月に開催する第1回委員会にて、委員の中から各語種1名ずつ「語種代表」を選出している。科目担当教員の選定にあたっては語種代表が候補者を選出し、例年1月に開催している本委員会で審議ののち決定している。その後、科目担当教員が所属する機関へ兼任依頼を行い、承認を得ている。					
(3) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか						
教員の教育研究活動等の評価の実施						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	該当なし。					
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性						
b ●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 （※）社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価します。 【600～800字】	例年4月の年度初めに全語種の科目担当者懇談会を設けている。懇談会には当委員会の委員も立ち合い、質疑応答及び意見交換を行うことで、学部間共通外国語の理念についていっそうの理解を促し、議論している。2016年度は4月1日に開催し、学部間共通外国語に関する情報共有（履修登録手続きについて、授業の進め方等）をおこなった。					

2016年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 共通外国語科目に学習成果を明示しているか					
a ◎修得しておくべき学習成果等を明確にしているか。 【約800字】	修得すべき学習成果は「学部間共通外国語シラバス」(51～53, 82～84, 92～94, 103～105, 118～125頁)に明記している。				
(2) 共通外国語科目の教育課程の編成・実施方針を明示しているか。					
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること。 【約600字】	<p>本委員会の教育目標は、各学部に設置されている外国語科目をサポートしつつ、より多面的な語学能力を向上させ、世界へ『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ』という本学の教育理念に基づき、「真の国際感覚」を持った「個」を育成することである。</p> <p>「各学部に設置されている外国語科目をサポート」という教育目標に基づき、「会話・コミュニケーション」に重きを置いた科目を多く設置している。例えば近年では、本学の学部カリキュラムにおいて、初習外国語としての「スペイン語」の科目が充実してきた背景をうけ、学部間共通外国語では「スペイン語ⅠA・ⅠB」「スペイン語ⅡA・ⅡB」に加え、「スペイン語会話ⅠA・ⅠB」「スペイン語会話ⅡA・ⅡB」を設置している。他に夏季・春季の休暇時期には、会話科目の集中講座を実施している。</p> <p>また、「多面的な語学能力の向上」という教育目標に基づき、学部カリキュラムに設置されていない科目を充実させており、「イタリア語」「アラビア語」「ラテン語」「ギリシア語」などを開講している。</p> <p>教育課程の編成として、本学は2004年度より半期制を実施しており、学部間共通外国語科目も、大学のルールに則り半期1単位とする授業を設置している。</p> <p>長期休暇中に開講する集中講座については、2単位を与えている。</p> <p>科目区分、必修・選択の別については、学生の所属学部・入学年度によって異なるため、「学部間共通外国語シラバス」及び「各学部シラバス・便覧」に明示しており、単位数も「学部間共通外国語シラバス」で明示している。</p>				

2016年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
C列の点検・評価項目について、必ず記述してください						
E列の現状から記述						
F列の現状から記述						
「改善を要する点」に対する発展計画						
当年度・次年度対応 F列にあれば記述						
中長期的対応 F列にあれば記述						
(3) 学習成果や教育課程の編成・実施方針が、大学構成員に周知され、社会に公表されているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	周知方法と有効性について、新入生に対してはガイダンス期間にシラバスの配付、Oh-o!meiji (明治大学独自のポータルシステム) で学生のポータルページへのお知らせを流すなどし、学部間共通外国語科目について周知しているほか、学部間共通外国語ガイダンスの実施や、GLOBAL NAVI ガイダンスの中で学部間共通外国語の案内をして、周知を行っている。 また、2014年度よりシラバスのPDFデータを作成し、ホームページ上でいつでも閲覧ができるようになっている。 集中講座はVTRを使用した説明会を開催しており、また、各語種科目担当者や委員に授業内で紹介をしてもらうことで、学生に対し受講のきっかけを作っている。 社会への公表方法として、ホームページでの周知のほか、おもに高校生対象に配付している本学ガイドブック内に共通外国語のページを設け明治大学全体の外国語教育と合わせてアピールしている。					
(4) 学習成果や教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	委員会執行部においては、教育目標について議論される機会が多いが、委員会全体として教育目標の定期的な検証は十分とは言えない。					

2016年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 共通外国語科目を体系的に編成しているか						
必要な授業科目の開設状況 ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	学部間共通外国語科目では、4キャンパスで半期合計約100のクラスがある。会話科目を中心に科目を開設しているが、学部によって設置されていないアラビア語等も設置しており、学生に多様な学習機会を提供している。学部横断で設置されている科目であるため、いずれのキャンパスでも受講可能としている。また原則全ての言語で授業の難易度に応じて「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のグレード制を設け、履修時には能力別クラス編成を行っている。グレード科目に対し「原則として履修順序はグレードの順とする」「異なるグレードを同時に履修することはできない」という履修ルールを設け、科目の順次性を保っている。また、シラバスにおいて各語種のクラスのグレード別に、「現在のレベル」「到達レベル」を明示している。段階的履修を担保している。 「海外語学研修プログラム」(カナダ・ヨーク大学・マクマスター大学、イギリス・シェフィールド大学)も学部間共通外国語の単位として認定しており、92名が修了した。 また、夏季休暇中には和泉キャンパスで9日間、「夏期集中講座」を開講し、英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話の4語種を設置している。春季休暇中には、清里セミナーハウスで合宿型の「英会話春期集中講座」を開講している。2016年度は夏期集中講座では4語種で149名、春期英会話集中講座では71名が修了した。 学生の資格試験受験対策を目的とした科目として、「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」「資格中国語」の4科目を設置しており、留学や就職の際に必要なスキル修得をサポートできる科目を設置している。これらの科目は学部によっては卒業に必要な単位数に算入することが可能である。	年間授業では本科目の履修が困難である学生でも、語学を効率的に身に付けられるように春期・夏期の2回、長期休業中に開講している「集中講座」は学生に好評を得ており、多様な学習の機会の提供をして、短期集中で内容の濃い授業を展開している。		今後は予算削減への対応を考慮しながら、さらに充実した「集中講座」となるよう、開講場所・期間・語種・時期について見直し・検討を行う。		
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性						
●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	「学部間共通外国語」の検証については、「学部間共通外国語教育運営委員会」が検証主体を担い、年4回委員会を開催している。6月の委員会にて、前年度の履修者数等を報告、現状を把握したうえで10月の委員会において、次年度の授業計画(設置コマ数、開設科目等)を検討し、1月の委員会において次年度の授業計画を確定している。					
(2) 共通外国語科目に相応しい教育を提供しているか						
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容(何を教えているのか)						
◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】	会話・コミュニケーションに重きを置いた科目を多く設置することで「各学部設置されている外国語科目をサポート」という教育目標の実現を図っている。例えば近年では、本学の学部カリキュラムにおいて、初習外国語としての「スペイン語」の科目が充実してきた背景をうけ、学部間共通外国語では「スペイン語ⅠA・ⅠB」「スペイン語ⅡA・ⅡB」に加え「スペイン語会話ⅠA・ⅠB」「スペイン語会話ⅡA・ⅡB」を設置している。また、長期休暇中に開講する「夏期・春期集中講座」では、学部の授業がない期間に会話を重点におく科目を学習する機会を提供しており、学部での授業の補完をしている。 また、学部カリキュラムに設置されていない科目を充実させ、「イタリア語」「アラビア語」などを開講することで「多面的な語学能力の向上」という教育目標の実現を図っている。					

2016年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 教育方法及び学習方法は適切か					
学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）					
e ●学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）を行っているか。 【なし～800字】	全学共通の「学部間共通外国語」の教育方法は、「英会話（夏期海外英語研修）」によるケンブリッジ大学やヨーク大学等への海外で研修を行う形式や、休暇期間に集中して学ぶ「夏期・春期集中講座」がある。「夏期・春期集中講座」は、定員を設定した「少人数授業」による会話科目で構成され、主にネイティブ・スピーカーの講師が担当する。夏期・春期集中の英語講座では、午前中にレベル別授業で「英語を学び」、午後はドラマ、プレゼンテーション、ニュースペーパー等の「Option Class（選択科目）」で「英語で学ぶ」授業が行われる。オプションクラスでは、例えばマルチメディアを活用し、全編英語でのショートムービーを企画・台本作成・撮影まで学生自身が行い、「YouTube」に公開する等の教育方法が取られている。 春季休暇中に行われる本学清里セミナーハウスでの7泊8日の合宿型の「春期集中講座」では、授業時間以外も「日本語禁止」のルールを設け、館内放送もすべて英語であり、学生が英語を使うための仕組みを作っている。講座に同行する大学院学生TA3名が英語による生活・学習全般のサポートをしている。これら科目では「英語を勉強する」のではなく「英語で勉強する」という実践的プログラムを大学独自に開発し、提供している。	夏期集中講座は学内で約2週間、土日を除く毎日、集中的に各語種の会話を学べる講座である。春期集中講座は清里セミナーハウスでの合宿型講座で、授業時間以外でも「日本語禁止」のルールのもと生活を送りながら学ぶ講座である。これらの講座は「気分はプチ留学」というキャッチフレーズの通り、国内にしながら留学体験ができ、これをきっかけに留学を考える学生もおり、学生の主体的な学びを促進している。		学生のニーズに合わせた講座体系(日数や開講場所、授業形態など)の構築を検討していく。	
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか					
a ●シラバスと授業方法・内容は整合しているか（整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握）。 【約400字】	共通外国語のシラバス原稿の作成において、統一したフォーマットに加え、執筆要領をもうけている。なお、英語種のシラバスは英語で記載されている。各教員は定期試験または毎回の授業の小テスト等で学生の学習到達度を確認している。 シラバスに基づく授業の展開については、明確には管理ができていないが、「授業改善アンケート」に「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」といった設問がもうけられており、その結果は担当教員に知らされている。				

2016年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(3) 教育成果について定期的に検証し、教育課程や教育内容・方法の改善（授業に関わるFD活動）に結びつけているか						
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	毎年4月の第一回学部間共通外国語教育運営委員会の後に、委員と学部間共通外国語の担当教員を集め、懇親会を行っている。そこでは、新年度履修手続き等に関する説明や、成績評価に関する説明などを行い、情報共有を行っている。					
b ●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	夏期・春期集中講座については独自のアンケートをとっており、委員会及び担当講師にフィードバックし次年度の改善に役立てている。また、集中講座で実施するアンケートに講座以外に、学部間共通外国語全般に関する設問を追加し、学部間共通外国語の認知度やイメージを問う他、フリー記述欄を設け学生に感想や要望を記入してもらっている。	集中講座アンケートの内容に基づいて、次年度の講座の実施に役立てている。		集中講座だけでなく、学期中の授業についてもアンケートなどを実施し、学生のニーズをくみ取っていく。		
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】	集中講座で実施するアンケート結果について、コーディネータ及び担当講師に送付しているほか、委員会でも結果を報告しており、全体で共有している。また、その結果については、次年度の講座コーディネータにも事前に送付し、講座の内容を検討する際の参考にしており、改善につなげている。					

2016年度 学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	毎年、自己点検・評価結果をもとに単年度計画書及び長期・中期計画書を作成し、PDCAサイクルをおこなっている。 自己点検・評価運営委員会については、例年6月に開催している第2回学部間共通外国語教育運営委員会が兼務している。自己点検・評価の実施については、委員長を中心とした執行部にて原案をまとめた上で、運営委員会にて審議している。評価報告書等の作成、公表については学部間共通外国語教育運営委員会の自己点検・評価報告書は明治大学ホームページで公表している。 全教員対象の授業改善アンケートを実施しているほか、夏期・春期に開講される集中講座において受講生を対象にアンケートを実施している。結果は講座運営母体である本委員会にて報告されている。					
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか						
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫	第2回委員会(2016年6月28日,審議事項2)において、前年度の自己点検・評価報告書を確認し、検証した結果を年度計画書に反映した。					
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫 <参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など	第2回委員会(2016年6月28日,審議事項2)において、前年度の自己点検・評価報告書を確認し、検証した結果を年度計画書に反映した。					